福井市観光振興計画（令和8～12年度）概要

1. 計画改定にあたって

令和6年（2024年）3月に北陸新幹線が敦賀まで延伸し、主要観光地では観光客入込数が増加するなど、市内外に新たな賑わいが生じています。また、関東圏からの来訪が大幅に増加するなど、これまでとは異なる人の流れも生まれています。

令和11年春には中部縦貫自動車道の県内区間全線開通が予定されるなど、福井市への誘客のチャンスが今後も続くものと考えらることから、的確な現状分析と課題把握に基づく観光振興計画の改定を行い、新幹線開業を機に生まれた賑わいを一過性とすることのないよう、さらなる観光振興に取り組みます。

2. 現状と課題

項目	単位	H30年 実績値	R6年 目標値	R6年 実績値
ふくい嶺北連携中枢都市圏観光客入込数	万人	2,295.3	3,060.0	2,712.3
市内観光客入込数	万人	419	525	448
市内観光消費額	億円	272	366	313
一乗谷朝倉氏遺跡観光客入込数	万人	72	139	114
まちなか観光客入込数	万人	173	222	195
越前海岸観光客入込数	万人	41	53	39
観光案内所の案内人数	人	74,961	148,000	99,765
福井市を訪れた方の好意的な意見の割合	%	93.4	96.0	97.8
外国人宿泊者数（市内）	人	22,800	75,000	19,753

(1)前計画の総括

9つの数値指標のうち、「福井市を訪れた方の好意的な意見の割合」が目標を達成しました。これは、北陸新幹線の福井開業に向けて取り組んだ「観光おもてなし市民運動」などを通じて、オール福井で観光客をもてなす機運が高まったことが要因であると考えています。

また、残りの指標については目標達成に至りませんでしたが、これは、令和元年から始まったコロナ禍により観光客入込客数が大きく落ち込み、旅行需要が以前の水準に戻るまでに長い時間がかかったことが影響したものと考えています。

なお、北陸新幹線の開業により令和6年の観光客入込数や観光消費額は大きく増加しました。また、外国人宿泊者数も増加しており、今後は、この賑わいを継続していくことが必要です。

(2)本市の課題

前計画の策定時に整理した6つの課題は、いずれも完全な解消に至っているものではなく、さらなる改善に取り組んでいく必要があります。

また、北陸新幹線開業後の状況を各種観光データに基づき把握・分析し、新たに4点を課題と整理します。

さらなる改善が必要な課題	新たな課題
■旅先としての福井の認知度不足・情報発信不足 ■福井ならでは、福井をイメージするブランディング不足 ■国内外の観光客に対する受入環境が不十分 ■観光素材としての魅力不足、観光客ニーズへの対応不足 ■市民が福井の良さを認識できていない、悲観的である ■他人事である、役割分担がなされていない	■市内の観光消費を増やす（滞在時間を延ばす）ためのメニュー不足 ■観光客が訪れる場所や時期にかたよりがある ■インバウンドの誘客につながっていない ■観光データの収集や適切な分析に基づく施策立案ができていない

3. これからの観光戦略

(1)改定のポイント

福井市が県内観光の周遊拠点として果たす役割は大きく、その役割を一層強化し、福井市を発地とする市域や県域を越えた広域観光の円滑化を図っていくことが地域経済の活性化へとつながっていくという考えのもと、以下の4つの視点から今後5年間で優先的に取り組むべき施策や行動計画を整理します。

視点1 福井市への滞在を促すハブ機能の強化	視点2 持続可能な観光の推進
視点3 旅先に選ばれるための観光プロモーション	視点4 インバウンド誘客の推進

(2)基本理念

「旅と交流が織りなす『福』を感じるまち」
～ ふくいが育んだ暮らしを味わう旅 ～

観光客が福井市に長く滞在できる環境を整えることで、観光消費の増大による経済活動の活性化を促すとともに、観光客と観光事業者や市民との間に触れ合いが生まれるなど、観光客と市民が共に幸福を感じることのできるまちの実現を目指します。

また、福井市の「豊かな食文化」を最大の強みと捉え、観光まちづくりへと活かしていきます。

(3)計画期間

改定計画の計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

(4)観光拠点

「まちなか」「一乗谷」「越前海岸」の3エリアを引き続き、福井市の観光拠点とします。

(5)数値目標・補足指標

	指標名	単位	令和6年実績	令和12年目標
1	市内観光消費額	億円	321	390
2	市内観光客入込数	万人	448	470
3	福井市観光公式サイトの閲覧数	万PV	782	800
4	市内外国人延べ宿泊者数	万人泊	2.0	10.7

	補足指標名	単位	実績	目標
1	福井県を旅行した観光客1人当たりの消費単価	円	24,913	27,000 円以上
2	福井県を観光した観光客の満足度（5 段階評価）	点	4.25	上昇を目指す
3	観光政策の満足度が高いと感じている市民の割合	%	23.3	上昇を目指す
4	福井市観光公式サイトのユーザー数	万	311	上昇を目指す

福井市観光振興計画（令和8～12年度）概要

4. 改定計画の施策体系

基本理念	方向性	基本施策	行動計画
～旅と交流が織りなす「福」を感じるまち ふくいが育んだ暮らしを味わう旅～	Ⅰ また来たくなる魅力づくりと国内外の旅行者をもてなす受入環境の整備	1 県内観光拠点としての都市機能の強化 福井市の滞在価値を高めるため、宿泊・体験・交通等の県内観光拠点としての都市機能を強化し、滞在延長と消費拡大を図る。	1．市内宿泊施設の魅力向上　（宿泊施設整備支援、施設の魅力紹介） 2．全国に誇れる食文化体験の提供　（福井の食文化を気軽に体験できる環境整備） 3．滞在を促す福井らしい体験の提供　（福井駅周辺での体験プログラム提供） 4．夜間・早朝観光コンテンツの開発（ナイトイベント、早朝体験プログラムの実施） 5．公共交通を活用した観光促進　（回遊性向上支援、レンタサイクルの活用）
		2 主要観光拠点の魅力アップ 福井市中心部や一乗谷、越前海岸といった地域資源を活かし、歴史・文化・自然を体験的に楽しめる環境整備を通じて、旅先としての魅力アップや滞在延長を図る。	1．まちなかの魅力アップ　（訪問スポットのストーリーの整理・発信、観光案内の強化） 2．まちなかを昼夜で楽しむ大型イベントの開催　（ふくい桜まつり、福井フェニックスまつり） 3．一乗谷の魅力アップ　（ストーリーを感じる仕掛けづくり、周辺観光施設との連携） 4．越前海岸の魅力アップ　（長期滞在の促進、地域団体の活動支援）
		3 持続可能な観光実現のための官民連携の強化 官民連携を軸に、おもてなしや「ゆかり」を活かした関係人口の拡大や観光人材育成、施設の維持管理等を進め、持続可能な観光地経営を実現する。	1．観光おもてなし運動の継続と新たな交流機会の創出　（マイスターの活躍の場の創出） 2．福井市との「ゆかり」を活かしたファンの形成　（関係人口の増加） 3．事業者及び関係団体との連携強化　（地域課題の共有と共同、観光事業者支援） 4．観光の担い手育成　（観光地経営のリーダー・観光ガイドの育成） 5．観光地や観光施設等の適切な維持管理　（優先順位や需要、利用状況を踏まえた維持管理）
	Ⅱ 福井ならではのブランディングと戦略的な観光プロモーション	4 福井のイメージの明確化、リブランディング 福井市の核となるブランドを再定義し、食文化や滞在型観光を軸に魅力を体系化・発信して、市の認知向上や広域周遊拠点としての地位確立を目指す。	1．福井市ブランドの再定義と育成支援　（「福井市＝○○」の創出） 2．食文化を通じた福井ストーリーの整理・発信　（ストーリーと体験の融合） 3．広域観光周遊拠点としてのイメージの確立　（市域・県域を越えた周遊観光の拠点化）
		5 ターゲットに則した情報発信 ターゲットを明確にした戦略的プロモーションや出向宣伝、市民参加型情報発信を通じ、福井市への誘客や周遊観光を促進する。	1．戦略的プロモーションの実施　（戦略的思考やインターネット技術を取り入れた情報発信） 2．効果的な出向宣伝の実施と観光商談会への参加　（対話を重視した情報発信） 3．周遊観光を意識した情報発信　（観光公式サイトの活用、ストーリーの発信） 4．インナープロモーションと自発的な情報発信の促進　（地域ぐるみでの情報発信）
		6 インバウンド誘客の推進 外国人観光客の行動特性を踏まえ、メディア発信・広域周遊提案・対面プロモーション等を組み合わた「FUKUI」の認知度向上と来訪促進を図る。	1．影響力あるメディアを通じた外国人への情報発信　（外国人目線での情報発信） 2．市域を超えた「エリア」としての誘客　（市域・県域を越えた周遊観光の促進） 3．“リアル”な対面による誘客プロモーション　（対話を重視した情報発信）